おわりに

産婦人科内診台についての調査をはじめてしばらくしたころ、さて、英語で「内診台」はどうやって表現するのだろうと気になって調べた。辞書や関連の本などで調べ、いくつか呼び方があることがわかってきたが、どうもぴんとこない。そのころにイギリス調査に行っていたこの調査メンバーの三村恭子さんが「イギリスには内診台はない」という私たちにとっては驚くべき結果を持ち帰った。その後、フランスやアメリカ、韓国、台湾で調査する際にも、「内診台」という用語の翻訳だけではなくて、その使途や機能を説明して、やっと「ああ、〇〇ね」という返事をもらえることが常だった。

日本語の「内診台」を直訳する用語がない、あるいは、いろいろな呼び方があるというのは、非常に興味深い。実際に国外調査をしてみて、なぜいろいろな呼び方があるのかわかった。日本の内診台の目的、機能、付属品、周辺の環境は日本の産婦人科医療という文脈において成立しているのである。それは医師と患者の関係、女と男の関係、わたしたちのコミュニケーションの仕方や身体動作、さらに恥ずかしさといった文化との関わり、そして精密機械を製作する技術力、それを購入する経済力などなど、さまざまな要素がからんでくる。

日本でかなり普及してきた自動で台座が昇降し、背もたれの角度が変わり、支脚器の角度がかわって開脚するシステムは、世界の最先端ということができるし、世界ではそれを必要としていないということもできる。韓国や台湾では、それぞれの国のメーカーが日本の内診台と似た形状の内診台を製作して販売しているが、どんな機能が付いているかを検討すると、かなり違う。

日本では内診台の環境にほぼ必ずあるカーテンひとつとっても、文化的社会的な違いが浮き彫りになってきた。イギリスでは、日本人を主に診察する日本人医師によるクリニックにはあったが、フランスにもアメリカにもなかったことは、それを象徴している。韓国ではカーテンのない病院とある病院を見学し、台湾で見学した3件はカーテンがあった。

かなり多くの女性が、産婦人科の内診台を用いた診療に不快感を抱いたり、ときには恐怖心を抱いていることもわかった。もちろん、内診台にのぼることにさほど抵抗のない人もいるにしても、多くの女性が経験し、その経験を嫌なものとして語る内診台はなぜ存在するのか、なぜあのような形状なのか、どうしてあのような環境に置かれ、あのような使われ方をしているのだろうか。そういう疑問を抱く人がいなかったわけではないだろうが、それを変えられるものだとは思わずに受け入れてきたところにも、日本の文化が反映されているのかもしれない。

内診台の体験は、内診台の形状や機能が変化し、不快感が減少してきたという意見もあるが、相変わらず女性にとって不快な経験として語られる部分もある。日本だけではなく、国外調査の結果からも、内診は医師もそれだけ気を使い、配慮する必要のあることだと認識されていた。

内診が産婦人科診療に欠かせないものだとしても、いまの日本の内診台の上で取らされる女性の姿勢が不可欠なものではないだろう。また、そもそも内診台があった方が診療がしやすいとしても、なくても診療できる場合もあるはずだ。それはイギリスの状況からも学べるし、思春期の女性を診療するアメリカの家庭医（Family Doctor）が内診の際に注意していることについての発言からも私たちが学ぶことは多い。さらに、日本の泌尿器科調査で、「なるべく膀胱鏡台に乗せない」ための努力がなされていることが泌尿器科の医師によって話されたのは、内診台を考える上で貴重な意見だと考える。

つまり、この報告書から読者に伝えたいことは、いまの日本の内診環境が変えられないもので

はない、ということだ。

この報告書はまだ、データをとりまとめて、整理した資料集のようなものである。ここから、私たちは、さらに考察を重ねて、学術的な論文とともに、「内診台」の現状と課題を指摘し、よりよい内診環境を得られるような努力もしていきたいと考えている。そのためには、患者である女性だけではなく、医師、看護師、助産師など、内診台に関わる医療者、内診台の開発・販売をしている人々の経験の集積や知恵が不可欠である。意見交換のために、この報告書が活用されることを期待している。

最後に、この調査プロジェクトに協力いただいたすべての皆様に感謝の意を表し、結びの言葉としたい。ありがとうございました。

参考文献

浅見二巳子「泌尿器科検査時の羞恥心への配慮」、『ウロナーシング』、9 (7)、2004 年、46-49 頁

Nicole BAMBERGER L’accouchement en 10 leçons, Hachette, 1979, pp. 142-145, pp. 156-161

フィンレージの会『新・レポート不妊―不妊治療の実態と生殖技術についての意識調査報告』、2000 年

傅大爲『性別・醫療・與近代台灣』、Socio Publishing Co., Ltd. Taipei, 2005 年、132 頁

ぐるーぷきりん (編)『私たちのお産からあなたのお産へ―アンケート 493 人の声より』、メディカ出版、1997 年

橋本成修、山城清二、鶴丸政枝、小泉俊三「身体診察に対する女性患者の抵抗感についての意識調査」、『医学教育』、32 (6)、2001 年、409-414 頁。

樋口一成、真柄正直、三林隆吉、中島精、中山栄之助、八木日出雄、柚木祥三郎『日本婦人科全書　産婦人科の歴史 (東洋編)』、第 1 巻 (2)、金原出版、昭和 34 年、180-181 頁、288-291 頁

「医療の場での女性の傷つきの体験」調査・研究グループ編『医療の場での女性の傷つきの経験調査報告書』、ヒューマンサービスセンター、2001 (2003 年)。

岩井正二、林基之、松本清一 (編)『臨床産婦人科全書』、第 4 巻第 1 冊、金原出版、昭和 45 年、28-31 頁

いわしや三誠堂の広告『産婦人科の世界：産婦人科の新しい診療機器』、30 (増刊)、1978 年

Terri Kapsalis Public Privates: Performing Gynecology from Both Ends of the Speculum, Durham and London: Duke University Press, 1997.

加藤宏一「８．設備、外来、新しい診察用設備」、『産婦人科の世界：産婦人科の新しい診療機器』、30 (増刊)、1978 年、284-288 頁

川喜田愛郎『近代医学の史的基盤』、岩波書店、1977 年、406-411 頁

河埜吉明「７．手術台、及び治療台」、『特殊鋼』、50 (2)、2001 年 2 月、40-43 頁

木川源則「２．手術および麻酔用器械、新しい手術室設備、手術台・照明装置」、『産婦人科の世界：産婦人科の新しい診療機器』、30 (増刊)、1978 年、86-90 頁

近藤ハル子、古屋恵子、藤本藤枝、郡司久子、戸羽彩子、梶師美子、百本文子、野宗万喜、藤井宝恵「産婦人科外来における内診台カーテンの必要性についての一考察-オープンな状態での意識調査-」、『日本看護学会論文集：母性看護』、33、2002 年

桑原惣隆「８．設備、外来、新しい診察用器具」、『産婦人科の世界：産婦人科の新しい診察機器』、30 (増刊)、1978 年、288-294 頁

まつばらけい、わたなべゆうこ『なぜ婦人科にかかりにくいの？』、築地書館、2001 年

Midwifery & Women’s Health at King’s College London, Academic Review 2001-2005

三村恭子、小門穂「診察環境の「当たり前」を見直す―産婦人科内診台を事例として―」、『F-Gens ジャーナル (Frontiers of Gender Studies)』、第 7 号、2007 年、229-237 頁

三村恭子、小門穂、柘植あづみ他「『女性にやさしい』機器のつくられ方―内診台を例にして」『ジェンダー研究のフロンティア　第四巻　テクノ／バイオポリティクス―科学・医療・技術のいま』　(舘かおる　編)、2008 年、223 - 240 頁

永井弘、金田江理子「分娩台・内診台の種類と使用上の問題点」、『周産期医学』、23 (3)、1993 年 3 月、341-346 頁

南雲君江「ありのままに生きたい～障害をもつおんなとして～」町田市シルバー人材センター、2001 年

中島宏一「北海道開拓の村アカデミー、解説学習〈旧近藤医院〉」(講座資料)、２００７年
及川しのぶ、俵智恵子、目時のり、藤原裕子「婦人科疾患患者が体験した羞恥の程度と要因」、『日本看護学会論文集：看護総合』、29、1998 年、97-99 頁
緒方正清『日本産科学史』、丸善、大正 9 年
Ricci The Development of Gynaecological Surgery and Instruments, 1949
Dean A Seehusen et al, “Improving Women's Experience During Speculum Examinations at Routine Gynaecological Visits: Randomised Clinical Trial” British Medical Journal, 333 , 22 July 2006, pp. 171-174
子宮筋腫・内膜症体験者の会たんぽぽ「たんぽぽはがきアンケート「内診台のカーテンについて」アンケート結果」、『たんぽぽ通信』、68、2005 年 5 月 30 日、16-18 頁。
子宮筋腫・内膜症体験者の会たんぽぽ「病院アンケートデータベース　公開　Part1 内診編」、『たんぽぽ通信』、72、2006 年 1 月 30 日、10-11 頁
Harold Speert (著)、石原力 (訳)『図説　産婦人科学の歴史』(Iconographia Gyniatrica)、エンタプライズ、1982 年
Harold Speert Obstetrics & Gynecologic Milestones Illustrated, 1996
杉立義一『お産の歴史』、集英社新書、2002 年、135 頁
鈴木正利ほか「外来診療のあり方を考える：外来部門の設計」、『産婦人科の実際』、43 (12)、1994 年
高橋美奈子、渡辺恵利子、児玉和子「患者の安心感を高める婦人科内診台カーテンの改良」、『日本看護学会論文集：母性看護』、30、1999 年、90-92 頁
田中詠美子、川祐子、平部美奈、岩本登美子、奥良美、高原優子「剃毛に対する患者の意識調査-オープンな状態での利点-」、『日本看護学会論文集：看護総合』、29、1998 年、94-96 頁
対馬ルリ子『「女性検診」がよくわかる本』、小学館、2006 年
ウィメンズセンター大阪、『こんな産婦人科が欲しい　女のクチコミ情報』、ウィメンズセンター大阪、1999 年
山崎元脩『婦人病論　改正挿図』、蓮沼善兵衛、1883 年
財団法人北海道開拓の村『北海道開拓の村』、2004 年

参考資料

<u>新聞記事</u>

朝日新聞、1987 年 2 月 25 日 (夕)、「女性の方朗報です　恥ずかしさちょっぴり消える　いすに座れば自動的に適正姿勢　産婦人科検診台」
朝日新聞、1987 年 2 月 26 日、「青鉛筆」
朝日新聞、1990 年 4 月 8 日、「医道具事典　検診台　「座るだけ」がヒット　恥ずかしさを減らす」
茨城新聞、1994 年 3 月 26 日、「自然なお産を考える　ぐるーぷきりんからの報告」
読売新聞、1994 年 10 月 20 日、「快適に出産、“妊夫”も活躍」
産経新聞、1997 年 2 月 11 日、「お産の現状知って欲しい　経験者 500 人の声を一冊に」
産経新聞、1998 年 3 月 11 日、「婦人科患者の本音　女のクリニックリスト」
産経新聞、2004 年 11 月 20 日、「ひと最前線　ブランド力アップの「広告塔」」

朝日新聞、2005年3月16日、「やさしい逸品　婦人科の検診台」
日本経済新聞、2005年5月8日、「新世代医療人（５）女性の視点で機器開発」

カタログ

Medical Supply Association Price List of Surgical Instruments & Appliances, 1905
Allen & Hanburys Ltd. Surgical Instruments & Hospital Furniture, 1923?
Chas F Thackray Ltd. A Catalogue of Operating Theatre Equipment, Ward Furniture, Sterilizing Apparatus, Ward Sundries etc., 1963
The Holborn Surgical Instrument Co. Ltd. Surgical Instruments and Medical Equipment Hospital Furniture, 1957
DOWNS Surgical plc. Electro Medical Equipment and Hospital Furniture, 198?
アトムメディカル『婦人科用機器総合カタログ』、1996年
マッケ・ゲティンゲ社『製品総合案内』(カタログ)、2000年
MCメディカル株式会社『SONESTAマルチテーブル』(カタログ)、2003年
マッケ・ゲティンゲ社『RADIUS：産婦人科と泌尿器科が大きく変わります』(カタログ)、2003年
株式会社三誠『産婦人科器械カタログ』、2004年
タカラベルモント『産婦人科機器総合カタログ』、2005年

付録　さまざまな内診台（写真）

国内で使用されている主な内診台

固定ベッド型

固定ベッド型用のふみ台

天井からのカーテン（右）と
着替え用のカーテン（左）

いす型（内診時）

昇降ベッド型

旗状のカーテン

回転いす型
（動く前、診察位置からみたところ）

いす型（正面）

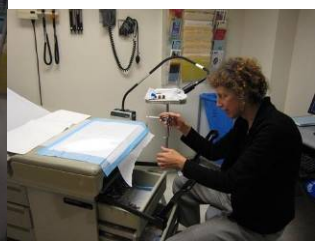
内診・外診兼用台（閉脚時）

泌尿器科の膀胱鏡台

海外で見た内診台

フランス、パリの公共病院

イギリス、ロンドンの日本人向けクリニック



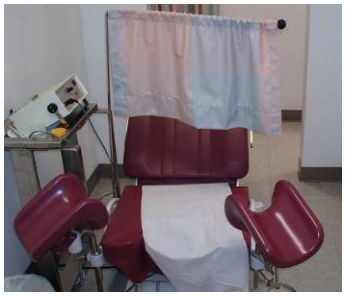
アメリカ、内科クリニック
（婦人科検診）

（簡易着）

（ドレープ）

韓国の産婦人科病院

台湾の大学病院

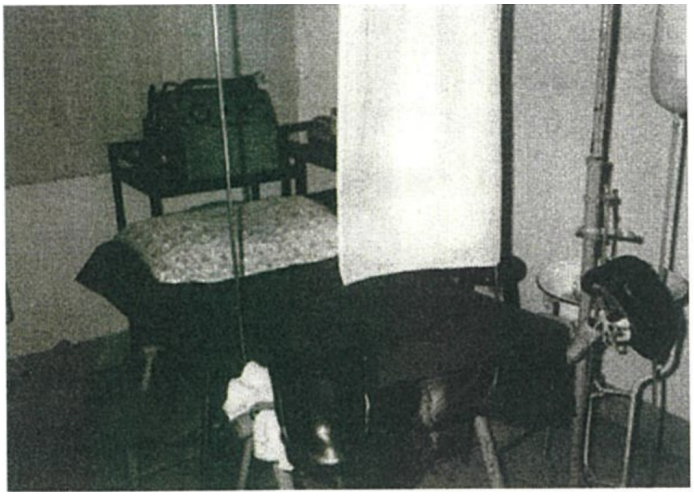


韓国の大学病院
（カーテンあり）

内診台にこだわっている台湾の医師（病院勤務医）の内診台と検査着（上下）

日本の古い内診台

北海道開拓の村（近藤医院）に展示されている、明治期の内診台（台の色は黒）



日本の植民地時代の台湾の婦人科内診台と旗状カーテン（出典：傅大爲『性別・醫療・與近代台灣』2005、132 頁より、著者の了解を得て転載、なおこの著書の本文中に説明はなく、写真のみ紹介されている。）

内診台調査　説明文書
（F-GENS　C3 プロジェクトのもの）

「医療技術の開発と女性の身体へのまなざし–産婦人科内診台を事例として」をテーマとする調査研究は、お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラムジェンダー研究のフロンティアプロジェクト C3 の一環として行われます。

目的は、産婦人科で使用されている内診台（検診台）の開発過程において、実際にそれを利用する医療者、そして内診台の上で検査・診療・処置を受ける女性の意見がどのように反映されているかを調査することによって、医療に関係する道具や技術の開発・応用をジェンダーの視点で検討することです。

この調査の後に、女性のグループインタビューも予定しています。調査結果は報告書として調査にご協力くださった方々を含めて配布し、さらに、学術論文および書籍として公表を予定しています。医療技術、道具の開発に女性とジェンダーの視点が配慮されるようになることを目指して幅広く公表したいと考えています。

調査にご協力いただいた方のプライバシー等には細心の注意を払います。記録はこちらで整理した後にお送りしますので、内容のご確認をお願いします。研究成果の中にお名前を記入するか匿名にするかは本日お聞きします。

本日お聞きしたいこと
＊現在使っている内診台について
・使う頻度、医師一人あたりの台数
・内診台のタイプ
・内診台を使うときの流れ（誰がどのように操作）
・メンテナンスなどに関するメーカーや販売代理店とのコンタクト
・これまでに使ったものの中でどんな内診台がよいと思ったか
＊内診台購入時の選定の仕方について
・購入が検討される時期
・予算や機能、メーカーについて、どのように検討するのか
・販売代理店から提供されるメンテナンスなどの情報
＊診察室と内診室のレイアウトについて
・診察室と内診室の数、使い勝手
＊カーテンについて
・カーテンを使用しているか、どのように使用しているか
＊分娩台について

内診台調査　協力同意書

同意文書

私は、「医療技術の開発と女性の身体へのまなざし一産婦人科内診台を事例として」調査研究の趣旨を理解し、インタビューに協力します。

200　年　　月　　日

病院／医院名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

産婦人科で内診台に乗った経験についての
グループ・インタビューへのご協力のお願い

２００　年　　月

私たちは、産婦人科での内診の環境（特に内診台）について、さまざまな人にインタビュー調査を行なってきました。今回は、実際に内診台に乗ったことがあるかたがたにお話をうかがうため、グループ・インタビュー（座談会）を実施することになりましたので、ご協力のお願いをさせていただきます。

このグループ・インタビューでは、４～５名の、似たような属性（今回は、○○な女性という属性です）を持つかたがたに集まっていただき、それぞれの体験についてお話をうかがいます。司会が進行役をつとめますが、基本的には、みなさまに自由に話し合っていただきたいと思います。話したくないことは無理にお話いただかなくても結構です。司会は、柘植、水島、三村、武藤の４名のうち１名が行ないます。そのほか、事務アシスタントと記録係が同席します。インタビューの長さは、１時間半程度です。インタビューの前後を含め、2 時間以上お引止めすることはありません。日程、時間、場所などの詳細につきましては、

☐　別紙「**産婦人科で内診台に乗った経験についてのグループ・インタビュー開催のお知らせ**」をご参照ください。
☑　調査メンバーの____が個別に電話・メールにてご連絡いたします。

インタビューでお聞きするのは、主に以下のようなことです。

- ご自身が内診台に乗ったときのことについて（どんな状況で、どんな内診台に乗って、どういう体験をしたか）
- 内診台の上で、感じたことや思ったこと
- 今、その体験についてご自身がどのように考えているか

インタビューは原則として録音させていただき、その後、文字に起こします。また、記録係がインタビューの様子を記録します。この２つの記録をもとに、研究チームでデータ集を作り、分析に使用します。こうしたデータの取り扱いについて、ご理解、ご了承をいただきますようお願いいたします。

これらの、プライバシーに触れる資料につきましては個人名を特定できない　ように細心の注意を払うとともに、研究発表をする場合にも個人を特定・推察できない形で使用いたします。

この調査の結果については、2007 年度中に報告書を作成する予定です。また、このテーマに関連する研究を行なっている研究者や団体に寄贈します。その後、論文にまとめて学術雑誌に発表する予定です。さらには、この研究報告書をもとに出版も考えております。この点もあわせてご了解いただけますと幸いです。

ただし、インタビュー後でも、お話いただいた内容の中に、報告書や出版物への掲載がためらわれるものがある場合や、訂正事項がある場合は、遠慮なくご連絡ください。ただし書きの追加やデータの削除といったかたちで、適宜対処いたします（ご連絡いただく前に、既に執筆、配布してしまった報告書等については、このような処理が不可能となりますので、ご了承ください）。

インタビューにご協力いただいた方には、お礼として粗品をお渡しいたします。また、会場までの交通費を実費でお支払いいたします。報告書・論文および出版物につきましては、ご希望のかたには寄贈させていただきます。

以上の調査の目的をご理解の上、ご協力いただければ幸いです。
不明な点がございましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

この調査に関するお問い合わせ先：　省略

産婦人科で内診台に乗った経験についてのグループ・インタビュー
協力承諾書

（*は、必ずご記入ください）

私は、「産婦人科での内診経験」についてのグループ・インタビューの目的や方法を理解し、私の自由意志でインタビューに協力します。

*日付：　　年　　月　　日

*ご署名（ニックネームでも可）：

ご住所：〒

電話：　（　　）　　－
ファックス：　（　　）　　－

電子メール：　　@

連絡は、（郵便・電話・ファックス・電子メール・その他：　　）を希望します。
（○で囲んでください）

報告書の送付について

この調査の報告書の送付を希望されますか？（○で囲んでください）　はい ・ いいえ

「はい」とお答えの方は、以下を送り先のラベルにしますので、ご記入ください

〒　　－

様

その他、なにかご希望がありましたらお書きください

内診台 FGI　インタビュー・ガイド

FGI 実施日：　　年　　月　　日
場所：
開始時間：　　：　　～
ファシリテータ：

【導入】

自己紹介

- それでは、そろそろグループ・インタビューを始めたいと思います。
- 今日、司会をつとめさせていただきます、（所属先）の●●と申します。それから、今日のインタビューの記録を担当いたします、▲▲と、事務担当の◆◆です。どうぞ最後まで、よろしくお願いします。

調査チームの紹介

- 私たちは、お茶の水女子大学の COE プロジェクト「ジェンダー研究のフロンティア」という研究プログラムの中の、調査チームのひとつです。
- 私たちは、現代の医療と女性に関する、いろんな調査をしていますが、今回は特に、産婦人科での内診の体験について調べています。今日は、みなさんがどういう環境で、どういう内診の経験をしているか、それから、そのことをどう感じているか、といったことをぜひお聞かせいただきたく思います。よろしくお願いします。

今日のグループ・インタビューについて

- グループ・インタビューが初めてのかたもいらっしゃると思いますので、今日どのようなことをするか簡単にご説明します。グループ・インタビューとは、座談会のようなものです。司会の私から幾つか質問をいたしますので、それに答えていただきますが、みなさん同士でいろいろ話を発展させていただいてかまいません。順番に要点だけ話す、ということではないので、どうぞ気楽に、おしゃべりをする感じで楽しんでください。
- ただし、楽しく有意義な話し合いにするために、幾つかルールがあります：**今日のグループ・インタビューのルール**（参加者の手元に一部ずつ配布してあるもの）→　**読み合わせで確認。**
- それから、テーブルの上に、紙と色鉛筆がありますので「こんな器械だった」とか、「こんな部屋だった」というような説明をなさる際に役に立つようでしたら、ぜひご自由にお使いください。また、模型や絵も幾つか用意してありますので、こちらも参考にしてください。
- では、さっそく始めたいと思います。今日は、●●（属性）なかたにお集まりいただいていますので、そういう共通点がある、でも違うところもたくさんある、ということで、まずは、ひと通り、自己紹介からお願いします。シールに書いていただいたニックネームと、一番最近の内診について、「いつ」、「どんな病院で」、「何のために」受診したか、どう思ったか（「印象」）をお話ください。
- 最初は、例として、私から始めます。「みなさん、こんにちは。私は●●です。最近の内診については・・・」

RQ： **「内診」**の体験を、どう意味づけて、表現するかを抽出し、内診台の存在の影響を探る。

チェック項目：

- **医療者の・・・ 性別 ／ 年齢・立場**（教授 etc） **／ 言動・態度 ／ 診察内容**
- **本人の・・・ 年齢** ／（過去の）**診察経験 ／ 受診目的 ／ 格好・服装 ／ 姿勢**
- **医療機関の・・・ 規模 ／ 清潔さ ／ 時間（時間帯、待ち時間） ／ レイアウト（プライバシー）**
- **環境→ 脱衣所 ／ カーテン ／ タオルなど ／ 内診台 ／ レイアウト（プライバシー）**
- **モノ→ 内診台（形、動き、音、におい、清潔さ、感触） ／ 器機（クスコなど）**
- **動き→ モノや環境にどう動かされるか**
- **コミュニケーション→内診前の会話や雰囲気**（医師に対する印象・関係性によって器械に対する印象が変わるか

【質問内容】

Q1 **今お話いただいた一番最近の内診について、もう少し詳しく教えてください。**

◆ いつ、どこ（国・地方；医療機関の規模）、受診目的、印象（一巡目に聞いたことを確認・補完）

◆ もうちょっと詳しく：「内診室」はあった？内診台・カーテンはどんな感じだった？医師の性別、ほかには誰がどこにいた？そのほか、覚えていることを何でも。

導入、情報収集

具体的な情報を細かく聞き、内診室を思い起こしてもらう

Q2 **では次に、ご自身にとって最も印象深かった内診の体験について教えてください。さきほどお話くださったことが一番印象深かった、というかたは、そのままそのときのことをお話ください。**（思い出す＆選択するために、ちょっと待つ）

◆ いつ、どこ（国・地方；医療機関の規模）、受診目的、印象

◆ ご自身は慣れていた？初めてのクリニック？その検査は初めて、etc

◆ もっと詳しく：診察の流れに沿った（問診→内診→etc）ストーリーを各自話してもらう。そのとき次を確認：レイアウト（内診室、内診台、カーテン etc）、医療者（医師、ほかのスタッフ、医療者との関係）、モノ（脱衣カゴ、内診台、カーテン、器具・モニター）。

◆ どう感じた？今はどう感じている？

フォーカスする体験についての情報収集

できるだけ細かく、詳しくたずねて、当時のことを思い出してもらう

Q3 **今お答えいただいたことが一番印象に残っているのはなぜでしょう。**（✧は、追加質問の例）

◆ 医療者に由来すること、本人に由来すること、医療機関の体勢や診察環境に由来すること etc.（上のチェック事項を確認しながら進行）

✧ 「では～でない環境なら、そう感じなくて済む？」、「～のほうがいいのはなぜ？」「何が違う？」「どういう点で評価できる？」etc.

✧ 必要に応じて、内診の環境にバリエーションがあることを説明する：カーテンなし＆脱衣所、白い台、前から乗る、台なし、輪っかに足を入れる、おしり部分のクッションが取り外せる、天井にライトのデコレーション、音楽

◆ そのほかに（上のチェック事項を確認しながら進行）：自分の五感で、どのようにモノ（内診台、クスコなど）を捉えたか＆どう自分が動かされたか、ということも関連するでしょうか？

✧ 内診台に乗る自分がどう感じたか・・・動き（開脚、背中、上昇・下降、回転など）（速さ）、形、感触（温かい、柔らかい）、清潔さ、音声、色 →どれも同じ？なにが違う？どう違う？

✧ 医療者との会話やその場の雰囲気は、器械に対して感じたこと（体験）に影響すると思いますか。

◆ 内診をする側、機械を作る側は、何を重視すべきと思いますか？

感覚・体験に意味づけ・理由付けしてもらう

critical に考えてもらう（適宜つっこみを入れる）

多様であることを示す→「では何が変わる？変わらない？」に答えてもらう

【終わり】

- 長い時間、お付き合いくださり、どうもありがとうございました。（簡単にまとめ）
- 今日みなさんがお話くださったことは、この調査をよりいいものにしていく上で、とても重要な手がかりになりました。どうもありがとうございました。同時に、今日の集まりが、何かしらみなさんにとってもプラスになるようでしたら、私たちもとてもうれしいです。では、最後に、今日のグループ・インタビューのご感想をひとことお願いします。

医療技術の開発／応用と社会の関係についてのジェンダー分析
平成１８年～平成２０年度科学研究費補助金基盤研究（B）
課題番号：18310169
研究代表者：柘植あづみ
（明治学院大学・社会学部・教授）
〒108-8636　東京都港区白金台 1-2-37
発行日 2009 年 3 月 23 日